

経営比較分析表（平成28年度決算）

岡山県備前市 備前病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	15	-	ド透	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
35,903	7,566	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

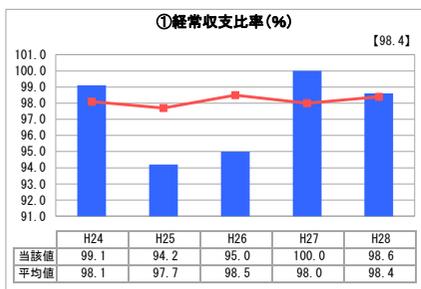
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
46	44	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	90
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
46	44	90

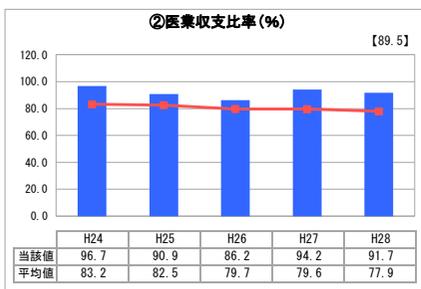
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

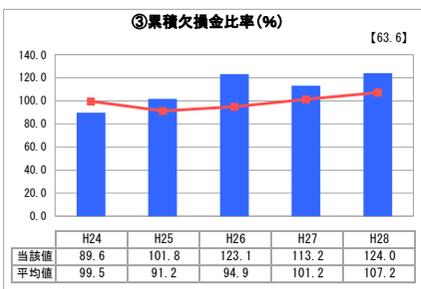
1. 経営の健全性・効率性



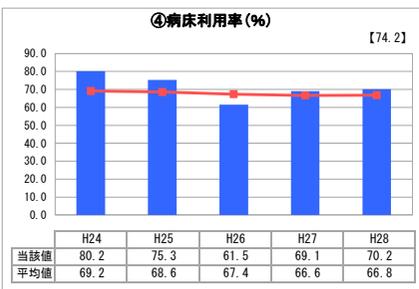
「経常損益」



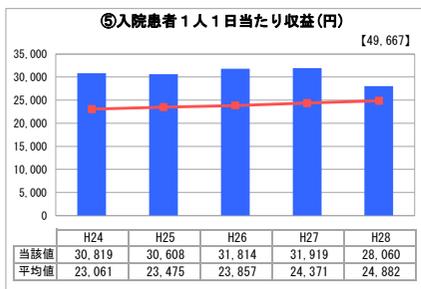
「医業損益」



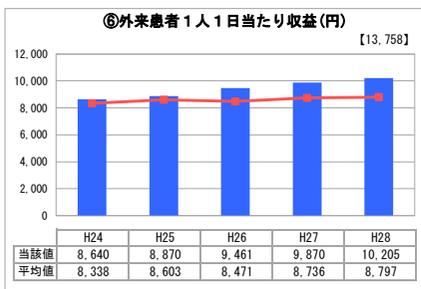
「累積欠損」



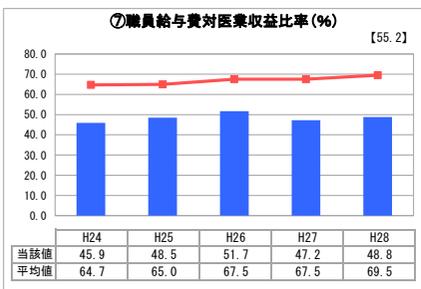
「施設の効率性」



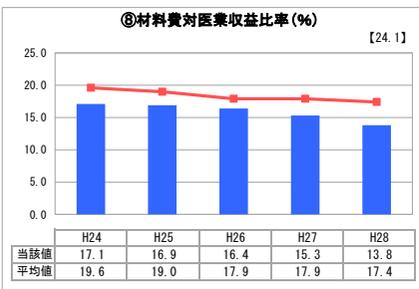
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

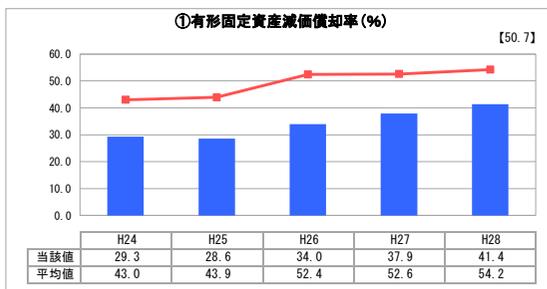


「費用の効率性①」

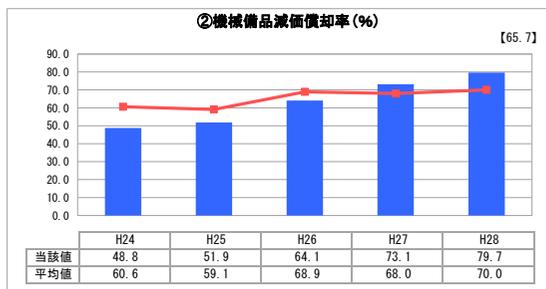


「費用の効率性②」

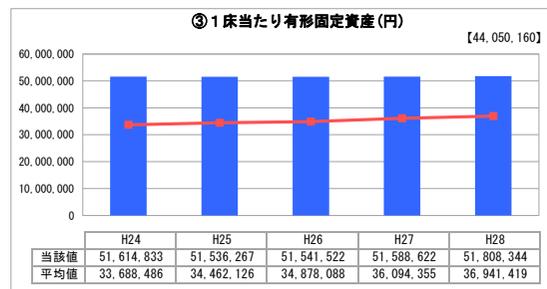
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

自治体病院として、行政、医療機関、介護施設と連携し、地域に必要な医療を公平・公正に提供するとともに、国保直診の目指す地域包括ケアの観点から、回復期を担う地域包括ケア病床、慢性期を担う療養病床の設置、リハビリテーションの充実、人工透析医療（15床）や各種健診事業のほか、介護保険事業として、介護老人保健施設（80床）、通所リハビリテーション事業（定員30人）、居宅介護支援事業、訪問看護ステーション事業も展開している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は類似病院・全国平均（以下、「類似病院等」と表記。）と同程度だが、②医業収支比率は類似病院等より高く、繰入金への依存度は低い状況にある。

しかしながら③累積欠損金比率が非常に高く、改善のためには毎年度の黒字転換を図っていく必要がある。

⑤入院患者1人1日当たり収益が減少しているのは、平成28年2月から、一般病床90床のうち44床を療養病床へ転換したことが影響していると考えられるが、病床機能に合った病態の入院患者の受け入れによって④病床利用率を上昇させることで、患者満足と収益の確保を図り、経営改善につなげていきたい。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似病院等より低い状況にあるが、平成23年度の病院の建て替えからの経過期間が短いことによるものと考えられる。

しかしながら、②の機械備品減価償却率は類似病院等より高く、医療機器類の老朽化がある程度進行していることが反映されている。

ただ、全ての機器を法定耐用年数で更新することは困難であるため、定期的に保守を実施しながら、適切な状態を保持することに努めたい。

また、③1床当たり有形固定資産は類似病院等より高くなっている。これは併設の老人保健施設の償却資産が含まれているためと考えられ、病院のみの数値では、類似病院に近い値となるが、設備・機器投資の際には十分検討を行い、過大にならないよう留意していきたい。

全体総括

医師不足の問題や人口減少等により、患者数の確保には困難な状況が続いており、結果として累積欠損金が積み上がっている。

今後については、備前市病院事業改革プランに掲げた取組事項を実施することで、持続可能な経営を目指して、改善に努めたい。

具体的には、地域包括ケアの観点から、回復期を担う地域包括ケア病床、慢性期を担う療養病床やリハビリテーションを充実させるとともに、地域の診療所や隣接地域の急性期病院との連携、協力を図り、地域医療全体の充実に取り組むことで、利用者のニーズに応えられるよう努力していく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

岡山県備前市 日生病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド訓	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
35,903	6,545	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

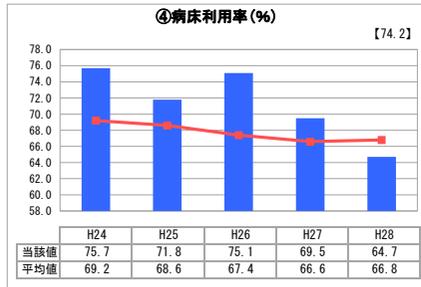
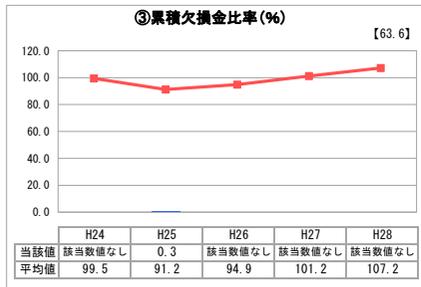
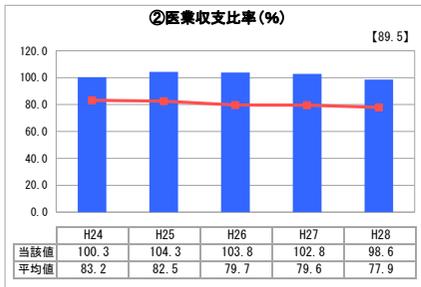
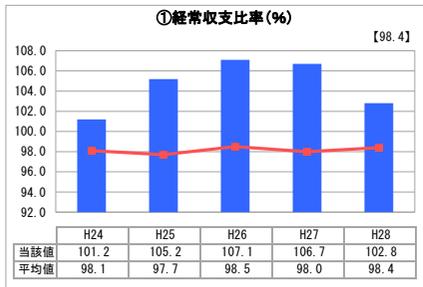
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
40	52	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	92
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
40	52	92

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

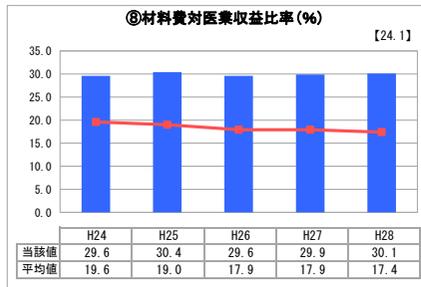
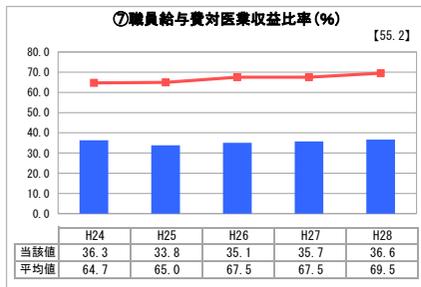
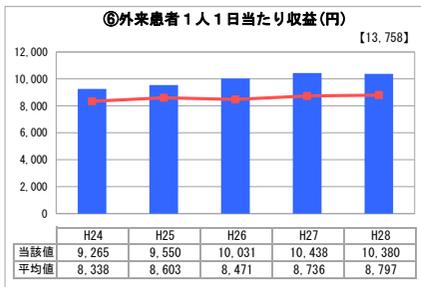
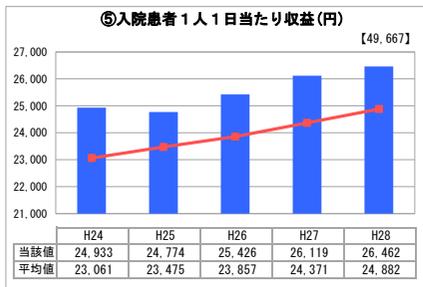


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

「費用の効率性②」

I 地域において担っている役割

当院は、救急告示施設、病院群輪番制等二次救急医療機関として救急医療を提供するとともに、地域で唯一の入院機能を持つ医療機関として、急性期から慢性期の幅広い病床機能を提供する役割を担っている。
人間ドックや特定健診等を積極的に受け入れることで地域における予防医療の推進に務めている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

⑧材料費対医業収益比率が類似病院等より高い状況にあるが、これは当院が院内薬局を採用していることから薬品等に係る費用が大きいことが考えられる。

少子高齢化の進行や大幅な人口減により、今後は地域の医療需要が大きく変化することが予想される。

今後の人口動向、高齢化率及び病床利用率等を注視し、病床機能及び適正な病床数を検討するとともに、慢性期を担う療養病床やリハビリテーションの充実を図り、患者ニーズに応えることのできる病院として、その機能を充実をさせることにより、効率的な病院経営に努めたい。

2. 老朽化の状況について

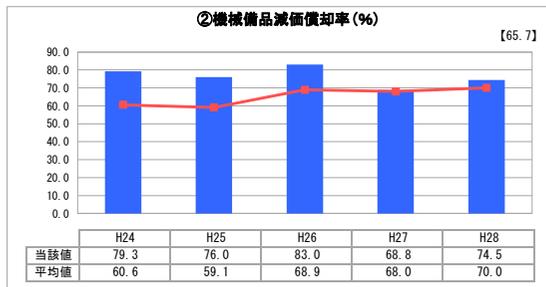
①有形固定資産減価償却率は、類似病院等より低い状況にあるが、これは平成18年度に行われた病院建設からの経過期間がそれほど長くないことが考えられる。

しかしながら、②の機械備品減価償却率は類似病院等より高く、これは医療機器の老朽化がある程度進行していることから考えられる。
建設から10年以上が経過し、随所に老朽化等による修繕の必要が生じている。
今後、発生が予測される大規模な修繕等に備える必要があると考えている。

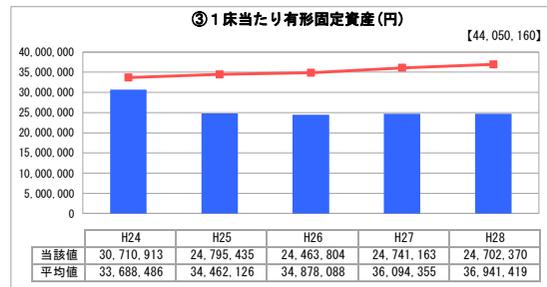
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

全体総括

すべての治療を当院で完結することが理想だと考えているが、現実には困難な状況であることから、これまで同様に、かかりつけ病院としての役割を果たすために、次の点を重視している。

患者の病状を的確に把握し、より専門的な治療が必要な場合は最適な医療機関へ依頼し、容体が安定すれば、その後は当院で治療を継続していくといった「身の丈にあった診療」を常に心がけることで、これからも地域住民に信頼され、必要とされる病院であり続けたいと考えている。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

岡山県備前市 吉永病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	19	-	ド透	救
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
35,903	5,550	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

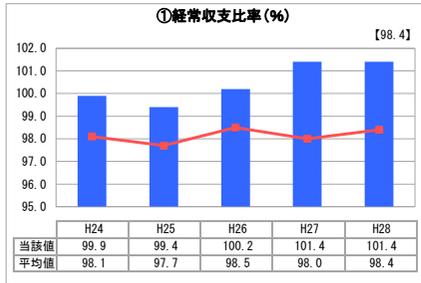
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
50	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	50
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
50	-	50

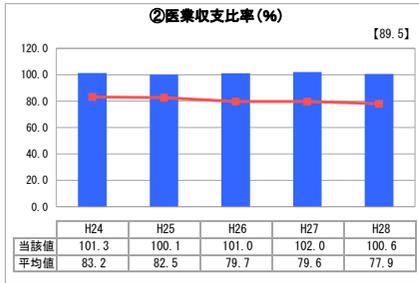
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

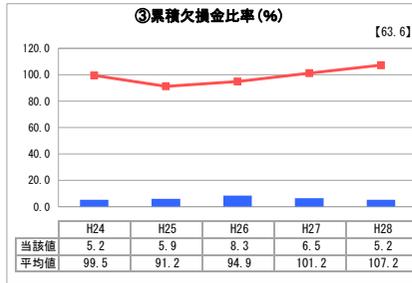
1. 経営の健全性・効率性



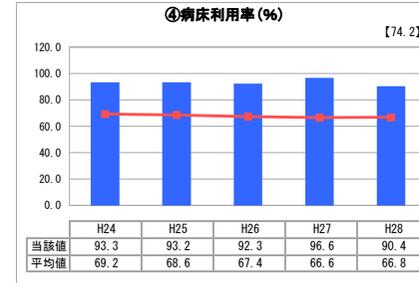
「経常損益」



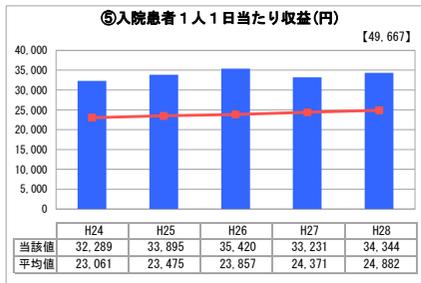
「医業損益」



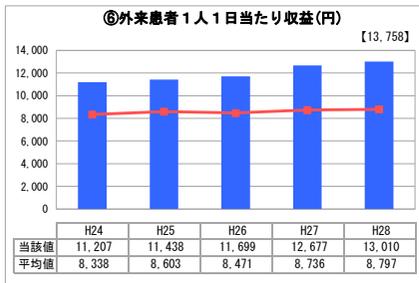
「累積欠損」



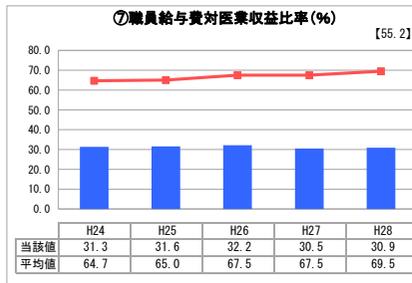
「施設の効率性」



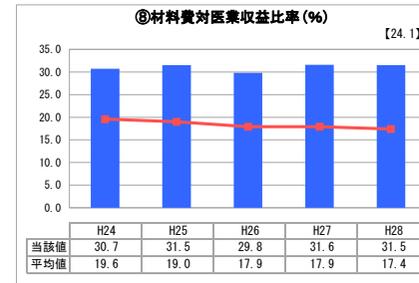
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

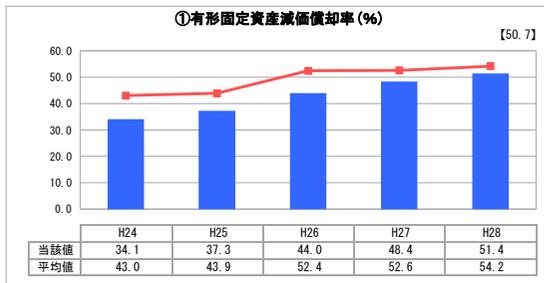


「費用の効率性①」

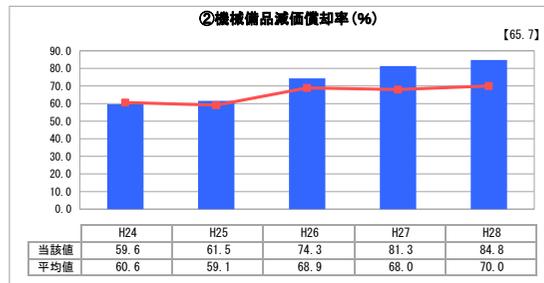


「費用の効率性②」

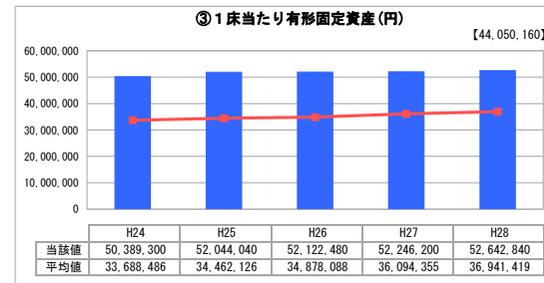
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

半径4km以内に民間診療所が1か所しかないという立地条件のため、土曜日診療や夜間受付窓口を9時まで開けるなどして地域医療の中核的機能を担っている。具体的には、救急医療、へき地医療、小児医療、人工透析医療、在宅医療、各種健診事業、高度医療機器の設置、保健衛生活動、学校活動など幅広い機能を提供している。また、総合保健施設を併設し、地域包括ケアの観点から、通所リハビリテーション事業、居宅介護支援事業、訪問リハビリテーション事業、訪問看護事業などの介護保険事業も展開している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①②③④⑤⑥⑦については、全国平均を上回り健全な状態を維持している。
⑧材料費対医業収益比率は全国平均を下回っているが、当院は院内薬局での運用をしており、院外薬局で運用している病院は全国には多くあり、特に問題がないと分析している。
また、③累積欠損金比率については、施設の建替で発生した欠損金であり、このままの経営状態を維持することで、早期に解消できると分析している。
今後は少子高齢化の進展が見込まれる中、将来的には限られた医療資源を効果的に活用するため、当院の病床を地域の医療ニーズの内容に応じて柔軟に機能分化し、地域に親しまれ信頼され必要とされる病院を目指したい。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、器械備品は老朽化しているが、施設が新しいこともあり、全国平均より低い償却率になっている。
②器械備品減価償却率については、当院は法定耐用年数での器械の更新を前提としていないため、全国平均より高い償却率となっている。
③1床あたり有形固定資産については、50床の小さな病院の割に診療科は19科と多く医療機器も充実していることが全国平均より高い要因となっている。

全体総括

当院の強みである1日平均の外来患者数300人以上と病床利用率90%以上を維持するため、今後予想される人口減などの問題に備え、ホームページの充実など広報活動にも力を入れ多くの方から選ばれる病院を目指したい。救急医療についても24時間体制での受入を継続したい。
地域包括ケアの観点からは、総合保健施設を併設し、通所リハビリテーション事業、居宅介護支援事業、訪問リハビリテーション事業、訪問看護事業などの介護保険事業を持続させていくことに加え、地域における地域包括ケアシステムの中核として、地域内の他の診療施設や、周辺地域の急性期病院等と協力しながら地域完結型の医療を目指したい。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。